

第11回中和のがん撲滅を目指す会

これまで、『中和のがん撲滅を目指す会』では、胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん、肺がんの5大がんをはじめ、さまざまながんを取り上げてきました。この度のテーマは、「放射線治療」です。

高齢化に伴い、増え続けるがん患者さんの治療において、手術や薬物治療とともに、3本柱の一つとなるのが、今回の放射線治療です。これらの治療を組み合わせた集学的治療により、がん全体の治療成績が大きく向上しました。また、早期の食道がんなど、手術をせずに治せるがんもあります。更に、骨の転移や神経浸潤（しんじゅん）などのがんによる痛みを和らげる緩和治療にも、非常に有効です。

実際、欧米では、がん患者さんの60～70%に放射線治療が行われるほど、標準的な治療方法になっています。

ところが日本では、放射線治療専門医が極端に少ないこともあり、25%のがん患者さんにしか、放射線治療を行うことができていないのが現状です。

このように、日本での放射線治療に対する認識が低いのは、放射線治療についての話を聞く機会が少ないことが原因ではないでしょうか。

3月5日（土）に、さざんかホールで開催する、『第11回中和のがん撲滅を目指す会』では、近畿大学放射線治療科教授の西村泰昌先生をお迎えします。

西村先生は、長年、日本の放射線治療の発展に尽力されている、この分野の第一人者の医師です。当院で放射線治療を開始する際にも、大変力を貸してくださいました。

今回は、放射線治療の話聞く貴重な機会だと思います。特に、中和地域では、喫煙率も高く、肺がんをはじめとするさまざまながんの発症率が高いことから、ぜひとも参加をおすすめします。

本会は、がんについて知ることが、自身や家族の大切な命を守る、との趣旨で始まりました。

これからも、『中和のがん撲滅を目指す会』を応援してください。

〔市立病院副院長 岡村隆仁〕



当院の放射線治療機器(True Beam)